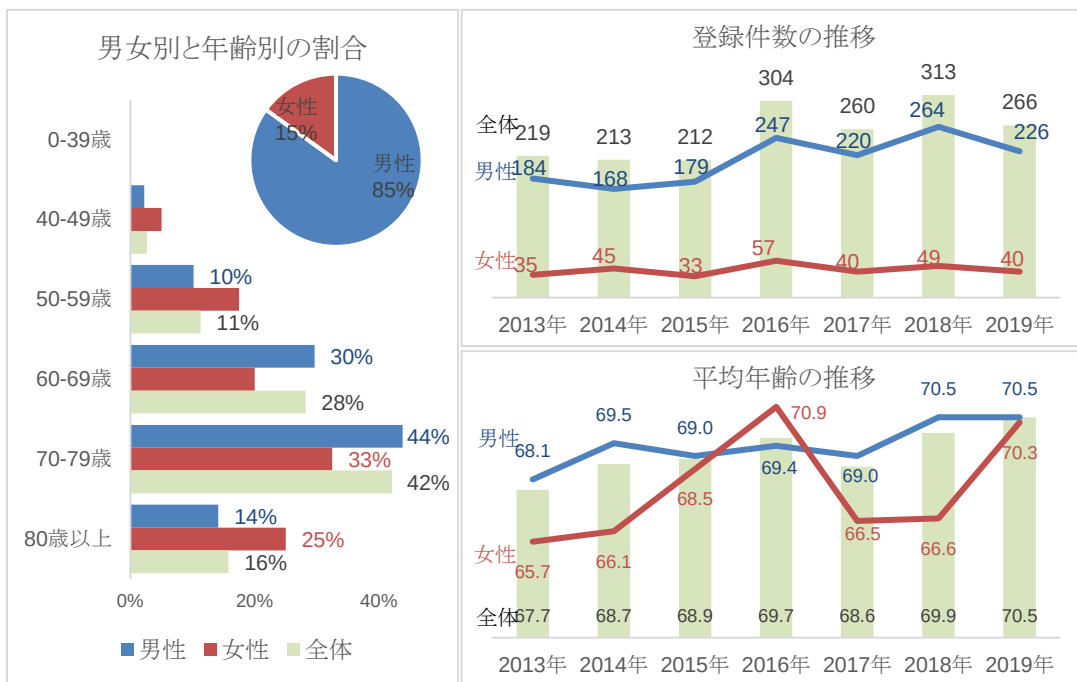


● 1 診断 ●

● 1-1 登録状況 ●

食道がんの2019年診断症例の登録件数は266件で、男性が多く85%を占めています。年齢別では60～70歳代が多いです。



◆ 1-1 資料

院内がん登録

集計対象:

▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く

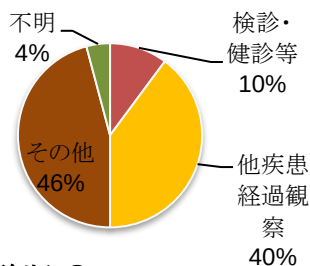
〈付録資料:表A-1〉

〈付録資料:表B-1〉

〈付録資料:表C-1〉

〈付録資料:表D-1〉

● 1-2 がんが発見される経緯 ●



食道がんが発見される経緯で最も多いのは、自覚症状により発見される場合を含む「その他」で46%です。次に多いのは、他疾患経過観察中で40%、がん検診や健康診断・人間ドックなどで発見された割合は10%です。

◆ 1-2 資料

院内がん登録

集計対象:

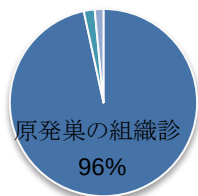
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表F-1〉

● 1-3 診断 ●



全体の96%が原発巣の組織診でがんと診断されています。

組織型	男性		女性		男女計	
	件数	%	件数	%	件数	%
扁平上皮癌系	195	86%	35	88%	230	86%
腺癌系	17	8%	1~3		20	8%
その他	14	6%	1~3		16	6%
合計	226		40		266	

◆ 1-3 資料

院内がん登録

集計対象:

▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表G-1〉

● 1-4 詳細部位 ●

約9割が胸部食道から発生しています。

*院内がん登録では、
[C15.3 上部食道]
[C15.4 中部食道]
[C15.5 下部食道]

のコードは原則使用しないことになっています。

局在コード	部位名	登録数
C15.0	頸部食道	10
C15.1	胸部食道	229
C15.2	腹部食道	20
C15.3	上部食道	0
C15.4	中部食道	0
C15.5	下部食道	0
C15.8	食道の境界部病巣	0
C15.9	詳細部位不明	7~9

◆ 1-4 資料

院内がん登録

集計対象:

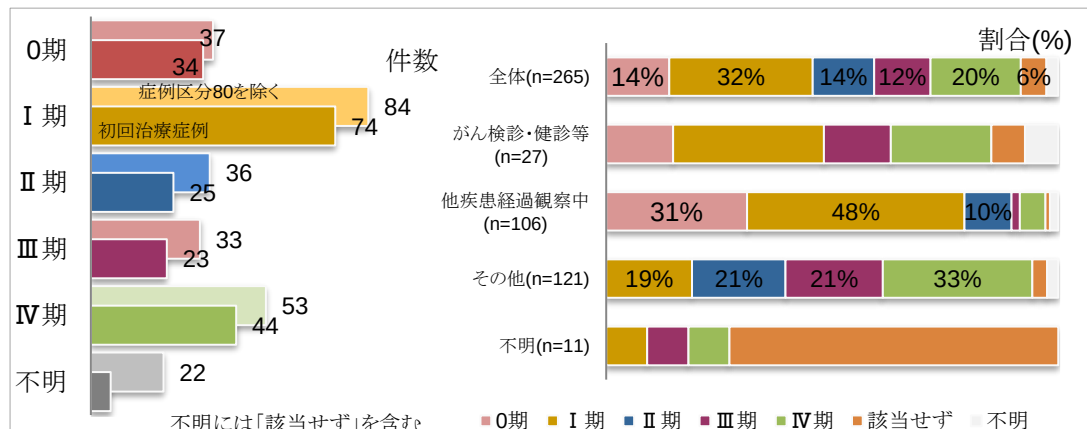
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

● 1-5 病期(総合ステージ) ●

UICC TNM分類の対象となった265件のうち32%がⅠ期で最も多く、初回治療症例のみの206例ではⅠ期が36%を占めています。



◆ 1-5 資料

院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:

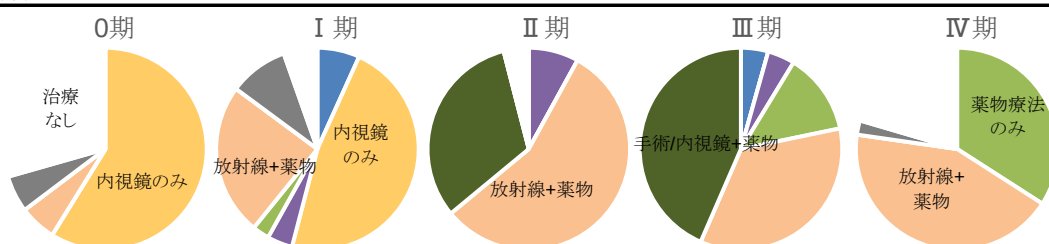
- ▶拠点・推進
- ▶2019年診断
- ▶症例区分80除く
- ▶病期集計対象のみ
(付録資料:表M-3)
(付録資料:表M-4)
(付録資料:表H-1)

● 2 治療 ●

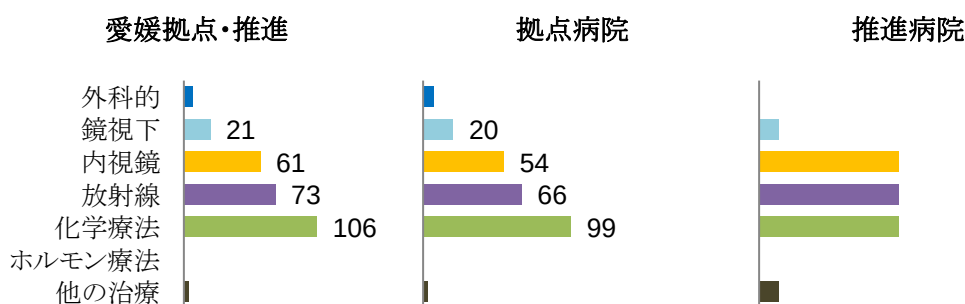
● 2-1 食道がんの治療 ●

ステージ別の主な治療法は、0期では、内視鏡のみ59%、Ⅰ期では、内視鏡のみ47%(手術もしくは内視鏡のみの切除療法では54%)、放射線+薬物 24%、Ⅳ期では薬物療法のみ34%、放射線+薬物療法 43%となります。

	stage0		stageⅠ		stageⅡ		stageⅢ		stageⅣ	
()内の割合は2018年全国集計の値	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	0	0%	4~6	(12%)	0	0%	1~3	(11%)	0	0%
内視鏡のみ	20	59%	35	47%	0	0%	0	0%	0	0%
放射線のみ	0	0%	1~3	(3%)	1~3	(9%)	1~3	(6%)	0	0%
薬物療法のみ	0	0%	1~3	(1%)	0	0%	1~3	(10%)	15	34%
放射線+薬物	1~3	(1%)	18	24%	14	56%	7~9	(20%)	19	43%
手術/内視鏡+薬物	0	0%	0	0%	7~9	(34%)	10	(41%)	0	0%
上記以外の組合せ	1~3	(3%)	7~9	(6%)	0	0%	0	0%	1~3	(4%)
治療なし	10	29%	4~6	(8%)	1~3	(11%)	0	0%	7~9	(17%)
合計	34		74		25		23		44	



● 2-2 各治療の件数 ●



◆ 2-2 資料

院内がん登録
集計対象:

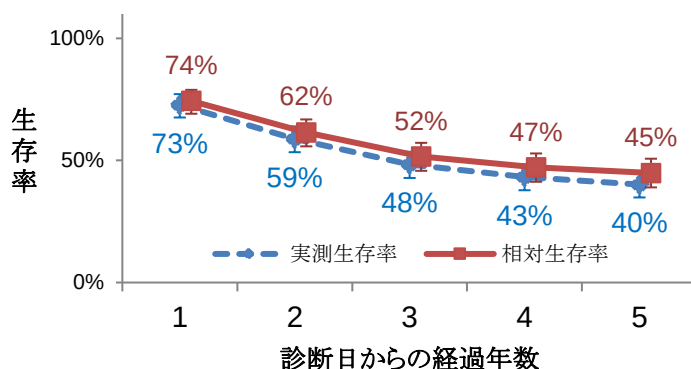
- ▶拠点・推進
- ▶2019年診断
- ▶症例区分20-31
- ▶病期集計対象のみ
(付録資料:表M-6)

● 3 予後 ●

● 3-1 5年相対生存率 ●

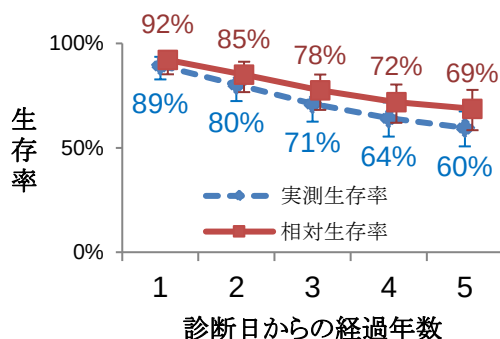
2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率40.1% (95%信頼区間 34.8 - 45.4)、相対生存率44.9% (95%信頼区間 39.0 - 50.7)でした。集計対象数は334、うち87%が男性、年齢別では60歳代が最も多く40%、70歳代が34%となっています。ステージ別の内訳は、Ⅰ期が40%、Ⅱ期 13%、Ⅲ期 27%、Ⅳ期 20%となっています。

		*予後判明率 98.8%					
		実測生存率			相対生存率		
		N	95%信頼区間		95%信頼区間		
		334	1		1		
1年	242	0.727	0.676	0.772	0.744	0.691	0.789
2年	195	0.589	0.534	0.639	0.615	0.558	0.668
3年	160	0.483	0.428	0.536	0.516	0.458	0.572
4年	143	0.432	0.378	0.484	0.471	0.413	0.529
5年	131	0.401	0.348	0.454	0.449	0.390	0.507

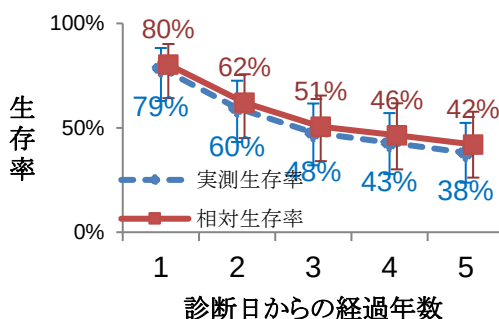


● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●

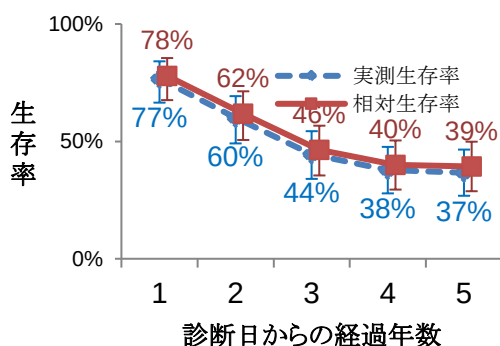
総合ステージⅠ (N=132)



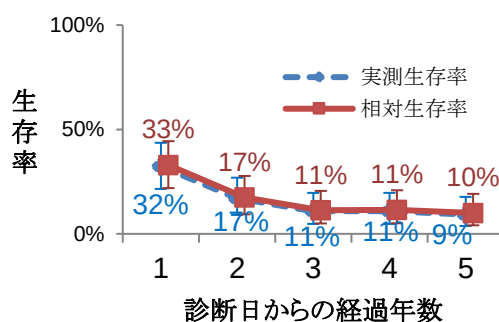
総合ステージⅡ (N=42)



総合ステージⅢ (N=90)



総合ステージⅣ (N=67)



◆ 3-1 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

◆ 3-2 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

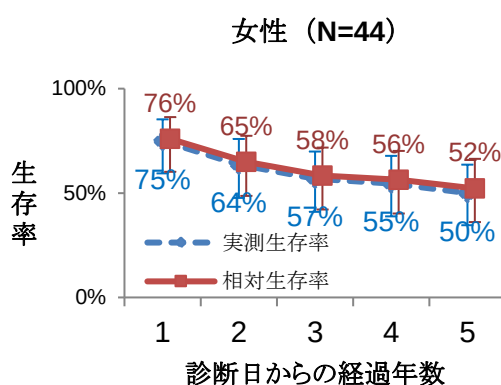
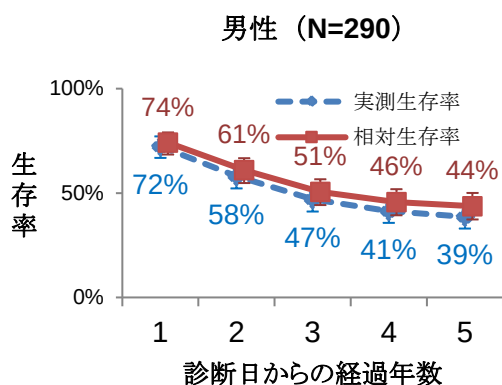
▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

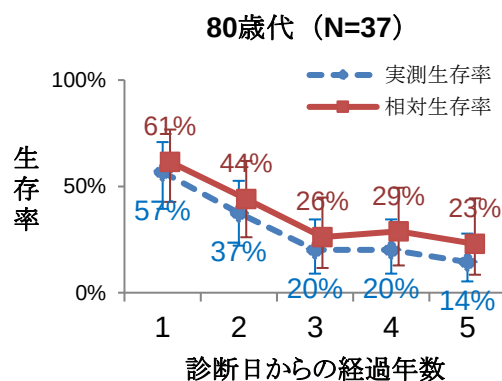
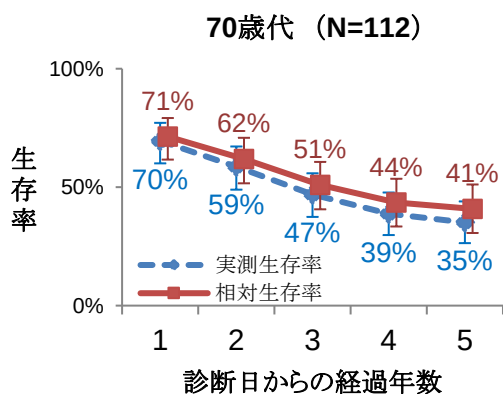
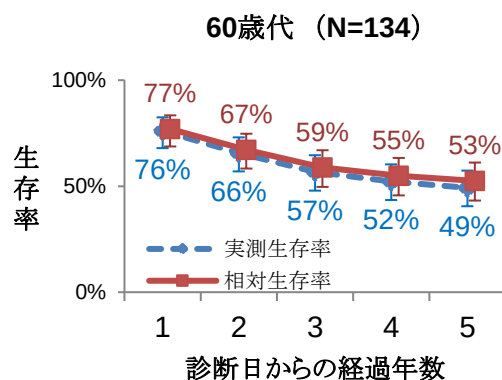
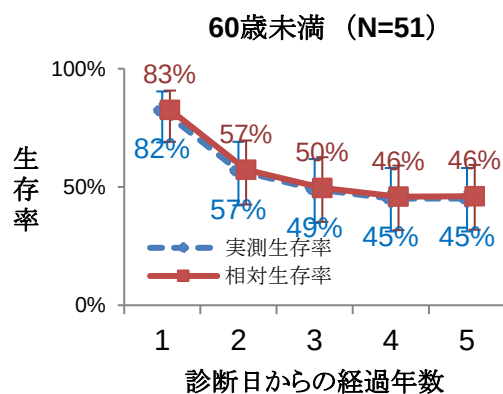
〈付録資料:表a-1〉

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●



◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表a-2)

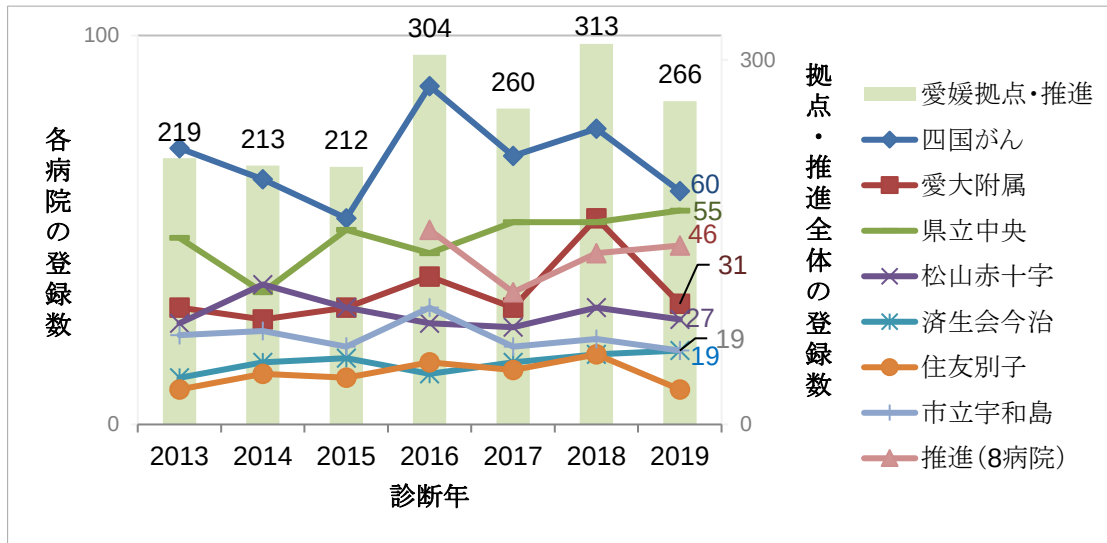
● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●



◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表a-3)

■ 4-1 登録件数の推移 ■

食道がんの登録件数は、2019年診断症例では県全体で266件でした。2016年診断症例から推進病院(8施設)の情報が加わっています。



◆ 4-1 資料

院内がん登録
集計対象：

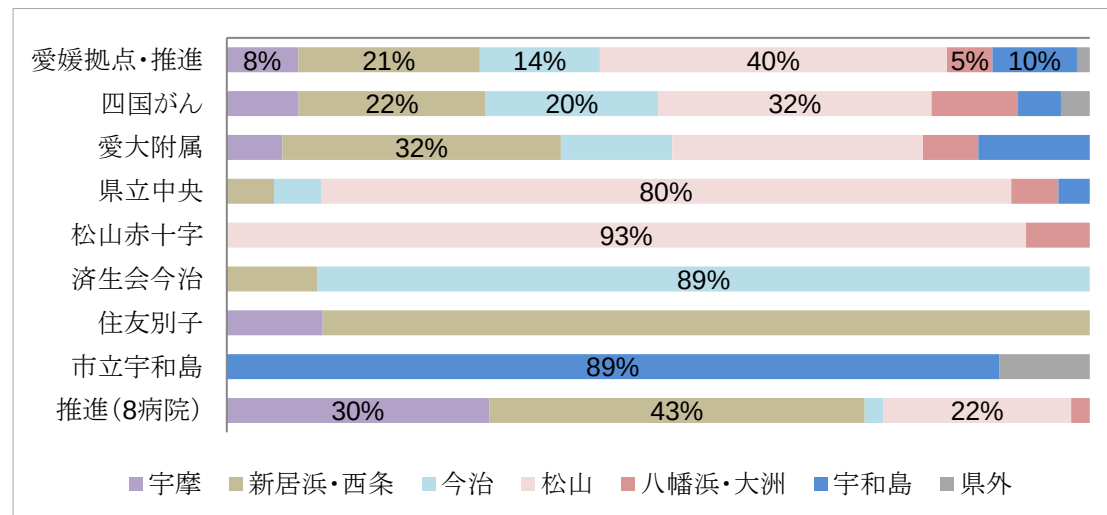
▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-1)

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では40%が松山圏域の患者です。四国がんセンターと愛大附属病院を除いて、主にその病院の医療圏内の患者をみている病院が多いです。



◆ 4-2 資料

院内がん登録
集計対象：

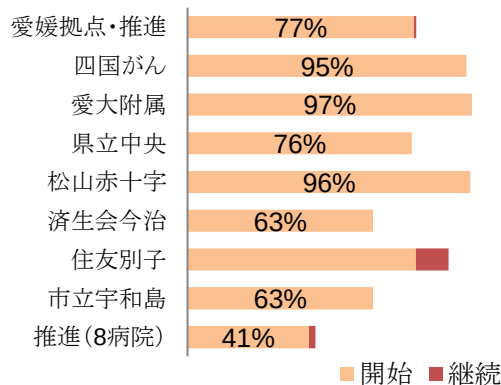
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く
(付録資料:表I-1)

■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規の食道がん症例のうち78%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した割合は77%です。初回治療の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的などの初回治療終了後の症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料

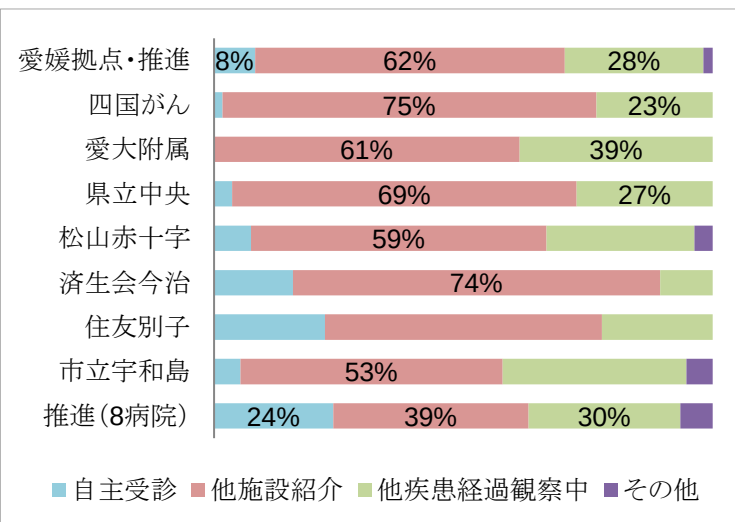
院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く
(付録資料:表K-1)

■ 4-4 来院経路 ■

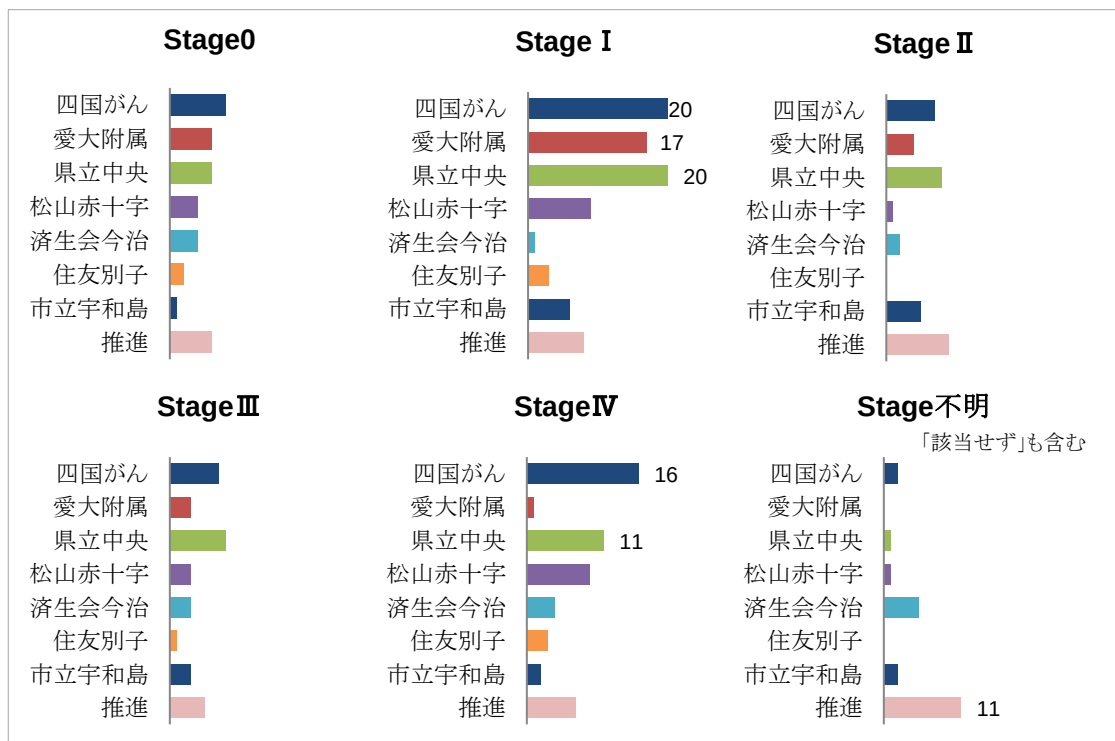


拠点・推進病院を受診した食道がん患者の62%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-1)

■ 4-5 病期別の件数 ■

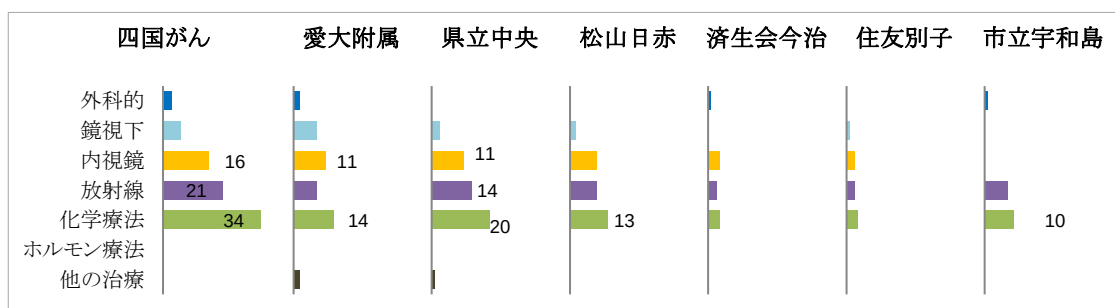
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在してます。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表M-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。

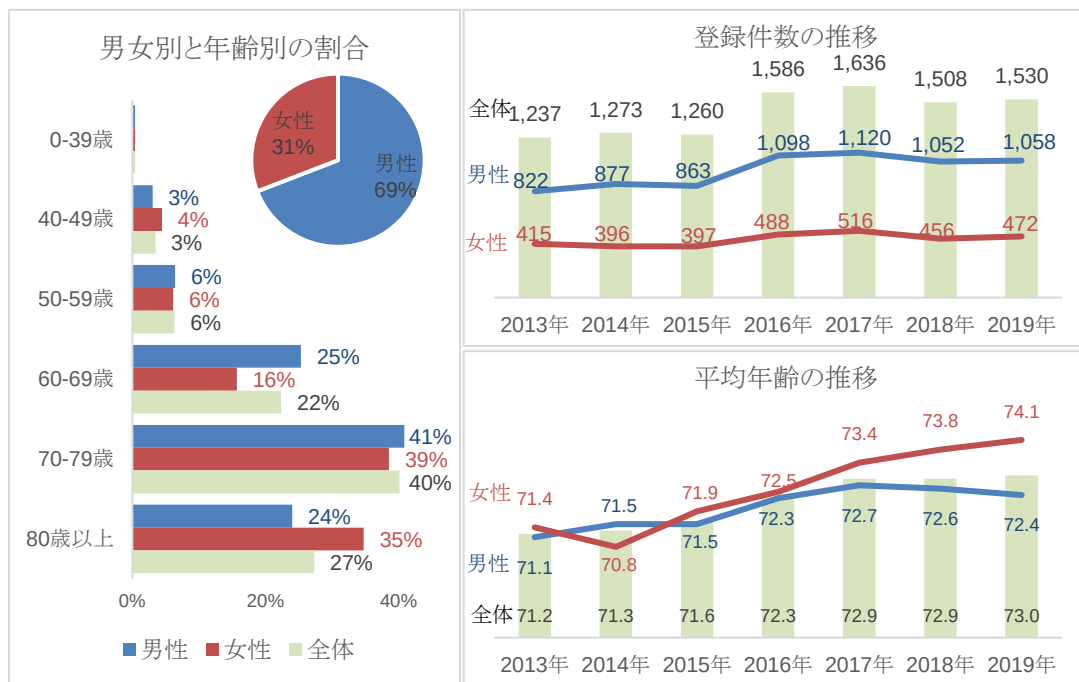


◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表M-6)

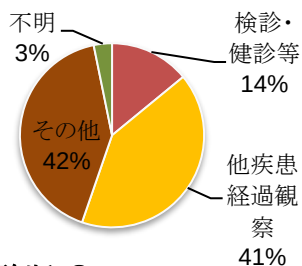
● 1 診断 ●

● 1-1 登録状況 ●

胃がんの2019年診断症例の登録件数は1,530件で、そのうち約7割が男性です。年齢別では70歳代が最も多く登録されています。登録者の平均年齢は、年々上昇傾向にあります。



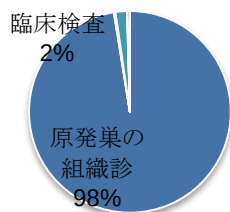
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



胃がんが発見される経緯で最も多いのは、自覚症状により発見される場合を含む「その他」で42%です。がん検診や健康診断・人間ドックなどで発見された割合は14%です。

● 1-3 診断 ●

胃がんは、内視鏡による直視下生検で診断確定されることがほとんどです。



● 1-4 詳細部位 ●

局在コード	部位名	登録数
C16.0	噴門	120
C16.1	胃底部	12
C16.2	胃体部	791
C16.3	胃前庭部	461
C16.4	幽門	51
C16.5	胃小弯	15
C16.6	胃大弯	0
C16.8	境界部病巣	1~3
C16.9	詳細部位不明	77

◆ 1-1 資料

院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く

〈付録資料:表A-2〉

〈付録資料:表B-2〉

〈付録資料:表C-2〉

〈付録資料:表D-2〉

◆ 1-2 資料

院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表F-2〉

◆ 1-3 資料

院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表G-2〉

◆ 1-4 資料

院内がん登録
集計対象：

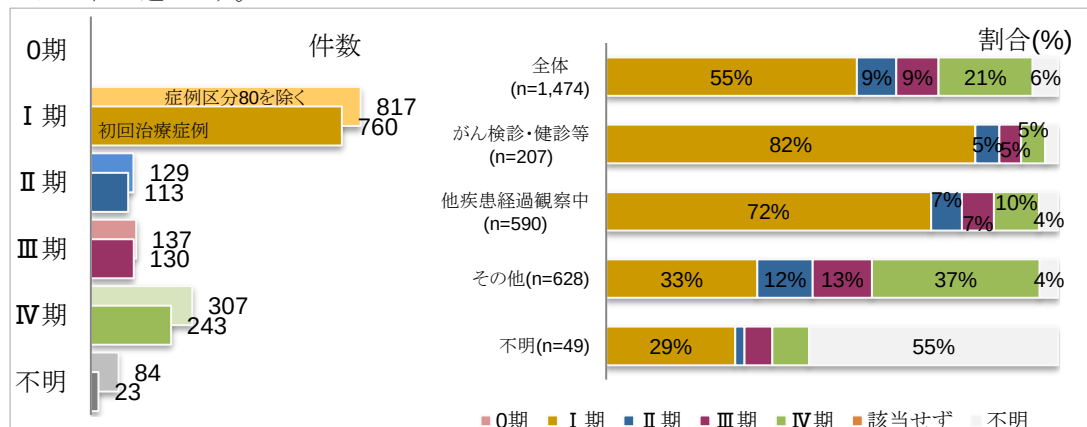
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

● 1-5 病期(総合ステージ) ●

病期分類の対象となった1,474件のうち、Ⅰ期が最も多く55%、次にⅣ期が21%となっています。発見経緯別の病期では、自覚症状等で発見された場合、ステージⅠ期の割合が約33%にとどまるのに対し、「検診・健診等」で発見された場合は82%、「他疾患経過観察中」に発見された場合は72%に達します。



◆ 1-5 資料

院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:

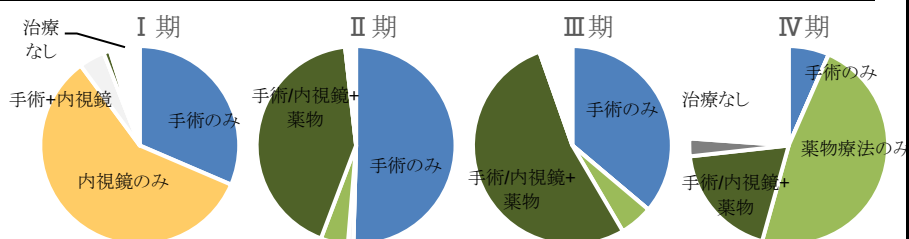
- ▶ 拠点・推進
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分80除く
- ▶ 病期集計対象のみ
(付録資料:表N-3)
(付録資料:表N-4)
(付録資料:表H-2)

● 2 治療 ●

● 2-1 胃がんの治療 ●

ステージ別の主な治療法は、Ⅰ期では、内視鏡のみ58%、手術のみ31%、Ⅱ期では、手術のみ50%、手術/内視鏡+薬物42%、Ⅲ期では手術/内視鏡+薬物53%、手術のみ36%、Ⅳ期では薬物療法のみが48%で、治療なし(多くがベストサポータティブケアのみ)も24%を占めています。(手術のみは開腹手術と腹腔鏡手術を合わせたものです)

	stage0		stage I		stage II		stage III		stage IV	
()内の割合は2018年全国集計の値	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ			239	31% (28%)	57	50% (48%)	47	36% (31%)	16	7% (6%)
内視鏡のみ			444	58% (61%)	0	0% (0%)	0	0% (0%)	0	0% (0%)
手術+内視鏡			32	4% (4%)	1～3	(1%)	0	0% (0%)	0	0% (0%)
薬物療法のみ			0	0% (0%)	4～6	(3%)	7～9	(6%)	116	48% (50%)
手術/内視鏡+薬物			7～9	(1%)	48	42% (39%)	69	53% (55%)	46	19% (13%)
上記以外の組合せ			1～3	(0%)	0	0% (1%)	0	0% (1%)	7～9	(2%)
治療なし			36	5% (6%)	1～3	(9%)	7～9	(7%)	58	24% (28%)
合計			760		113		130		243	

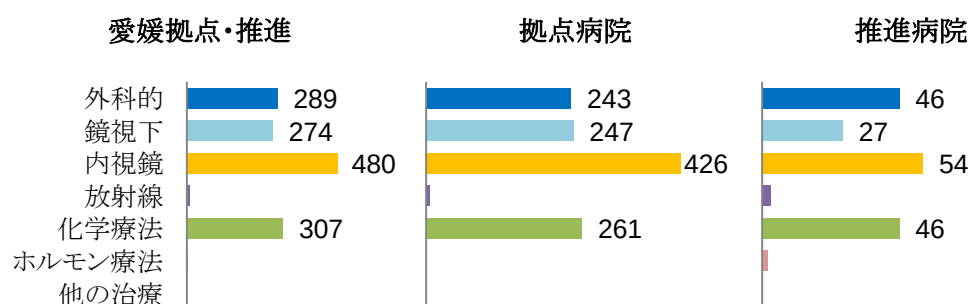


◆ 2-1 資料

院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:

- ▶ 拠点・推進
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分20-31
- ▶ 病期集計対象のみ
(付録資料:表N-5)

● 2-2 各治療の件数 ●



◆ 2-2 資料

院内がん登録
集計対象:

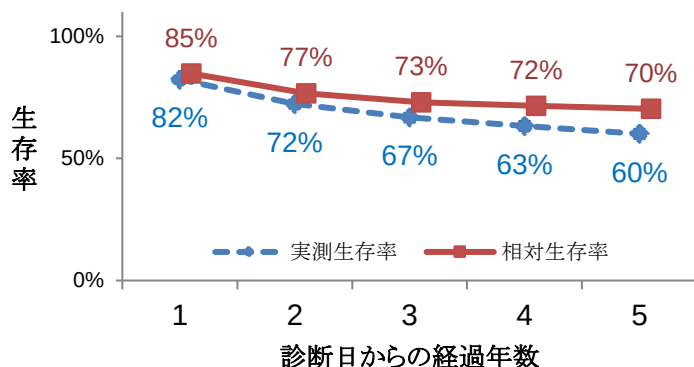
- ▶ 拠点・推進
- ▶ 2019年診断
- ▶ 症例区分20-31
- ▶ 病期集計対象のみ
(付録資料:表N-6)

● 3 予後 ●

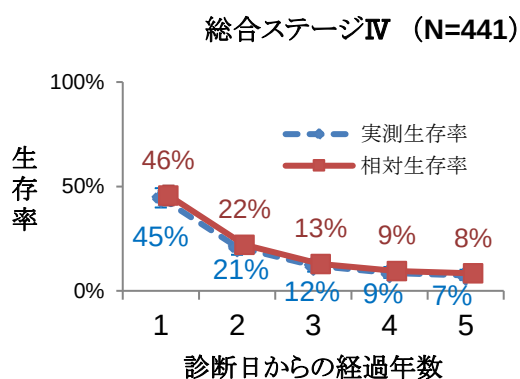
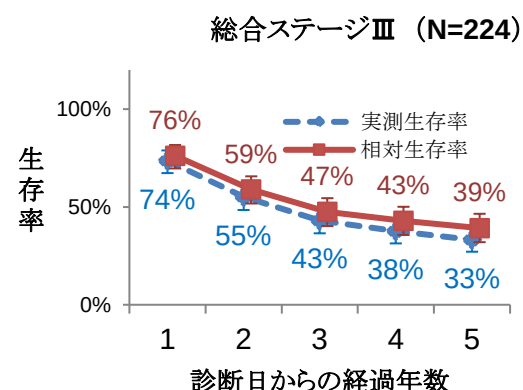
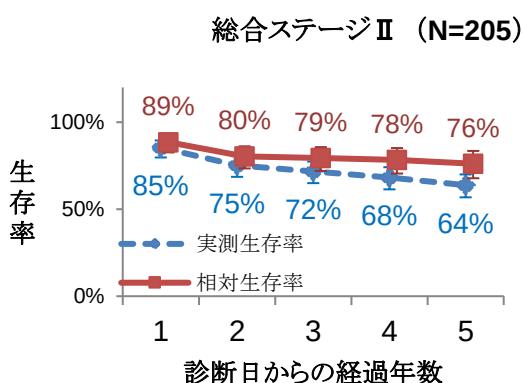
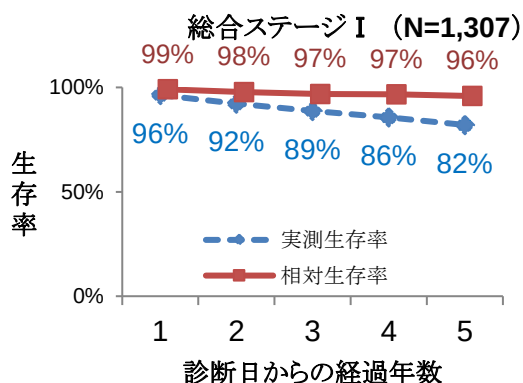
● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率60.1% (95%信頼区間 58.0 - 62.1)、相対生存率70.3% (95%信頼区間 67.9 - 72.7)でした。集計対象数は2,185、うち68%が男性、年齢別では70歳代が最も多く35%、60歳代が29%、80歳代以上が23%となっています。ステージ別の内訳は、Ⅰ期が60%、Ⅱ期 9%、Ⅲ期 10%、Ⅳ期 20%です。

	N	*予後判明率 98.5%					
		実測生存率			相対生存率		
		95%信頼区間			95%信頼区間		
	2,185	1			1		
1年	1,796	0.824	0.807	0.839	0.848	0.831	0.864
2年	1,571	0.723	0.704	0.741	0.767	0.746	0.786
3年	1,446	0.668	0.648	0.687	0.730	0.708	0.751
4年	1,367	0.634	0.613	0.653	0.716	0.692	0.738
5年	1,285	0.601	0.580	0.621	0.703	0.679	0.727



● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●



◆ 3-1 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

◆ 3-2 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

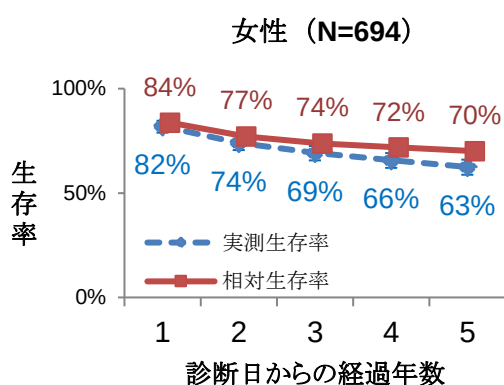
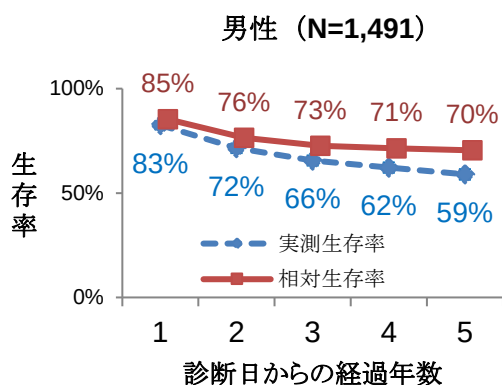
▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

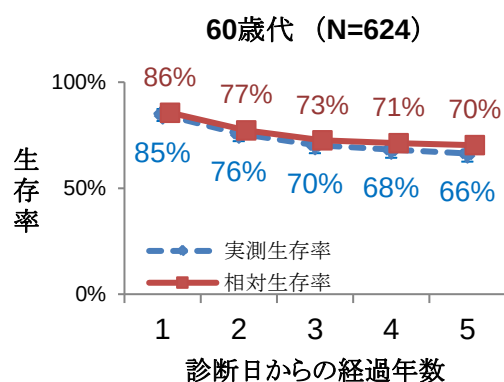
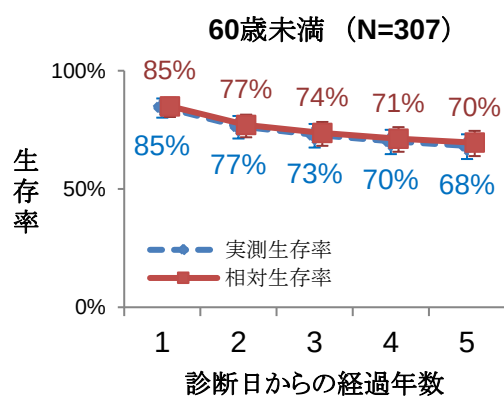
(付録資料:表b-1)

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●

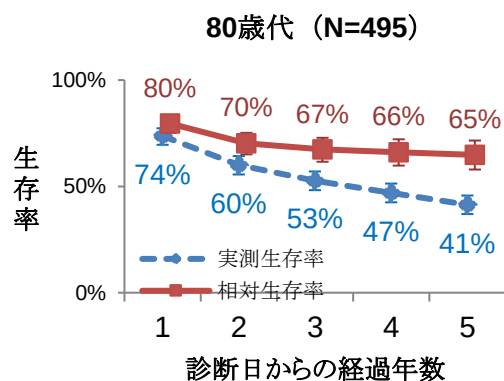
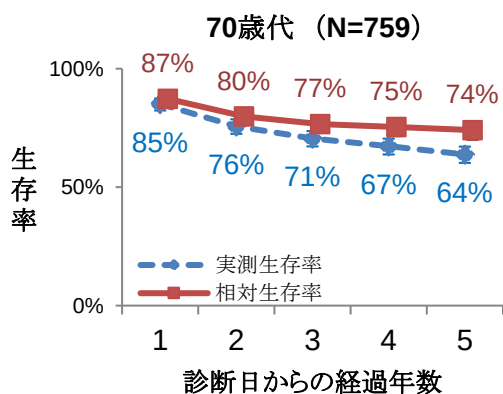


◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:b-2)

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●

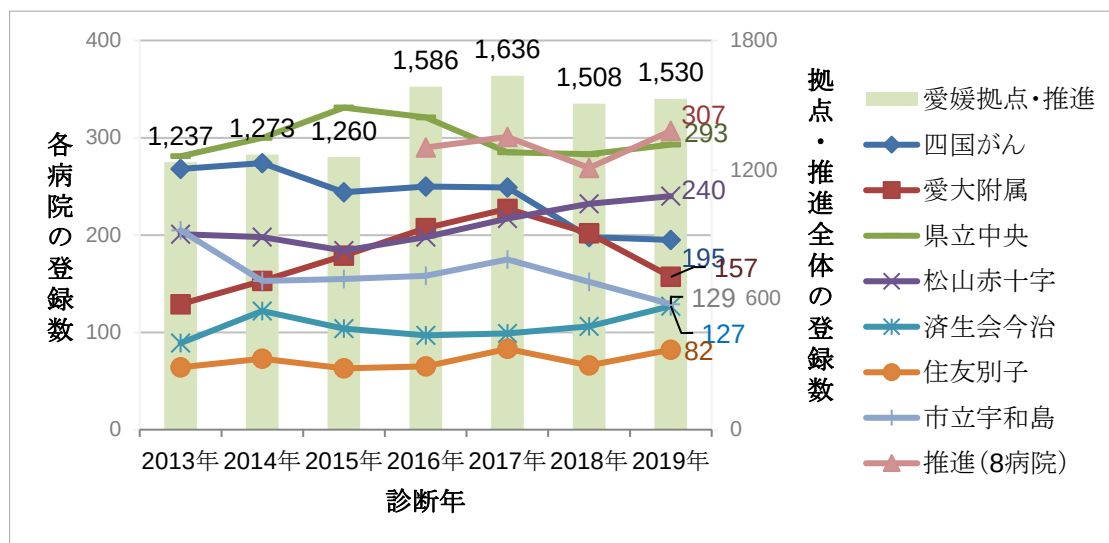


◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表b-3)



■ 4-1 登録件数の推移 ■

胃がんの登録件数は、県全体では1,200件台を推移していましたが、2016年診断症例以降、推進病院の情報も加わり2019年診断症例は全体で1,530件となっています。



◆ 4-1 資料

院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く

〈付録資料:表A-2〉

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では45%が松山圏域の患者です。四国がんセンターと愛大附属病院を除いて、主にその病院の医療圏内の患者をみている病院が多いです。

◆ 4-2 資料

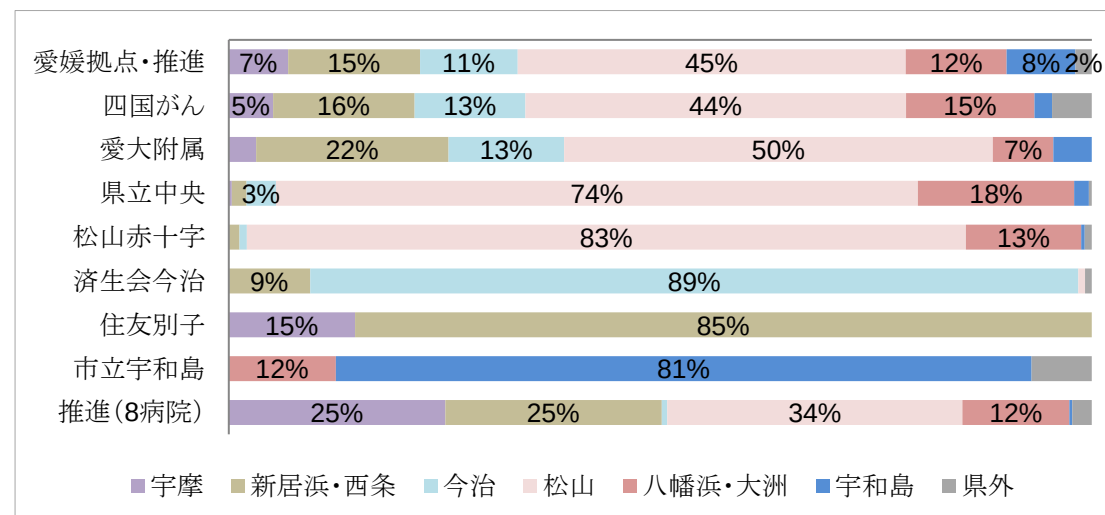
院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2019年診断

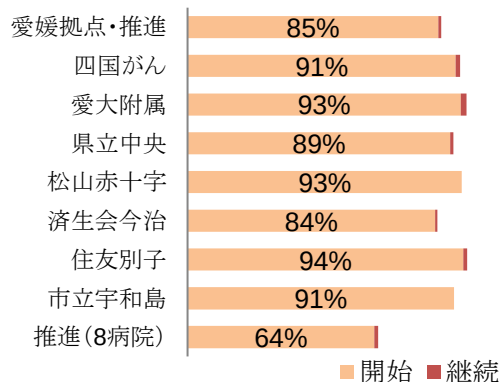
▶症例区分80除く

〈付録資料:表I-2〉



■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規の胃がん症例のうち86%がその病院で初回治療を受けています。その割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的の症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料

院内がん登録
集計対象：

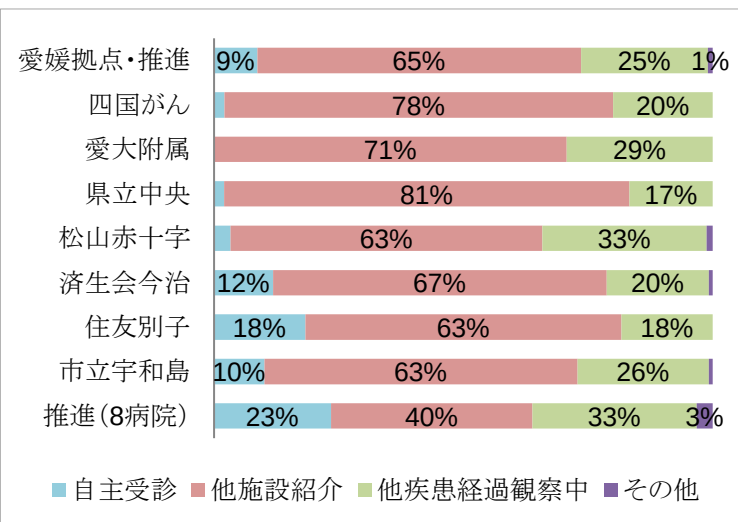
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表K-2〉

■ 4-4 来院経路 ■

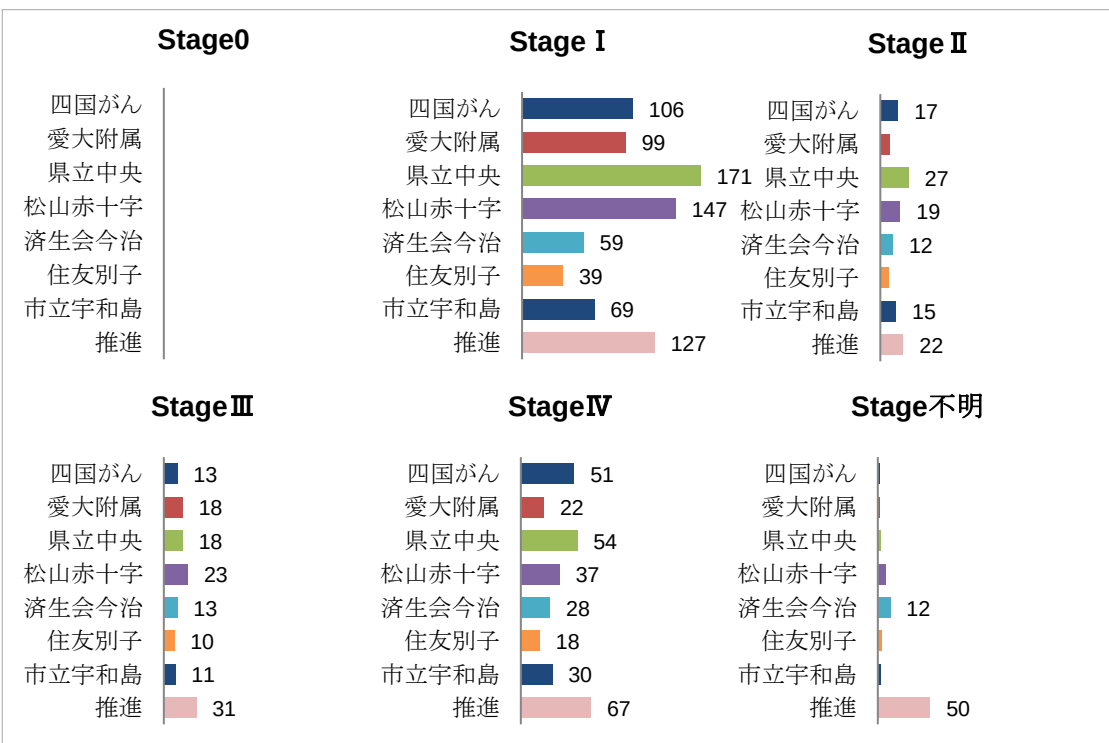


拠点・推進病院を受診した胃がん患者の65%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-2)

■ 4-5 病期別の件数 ■

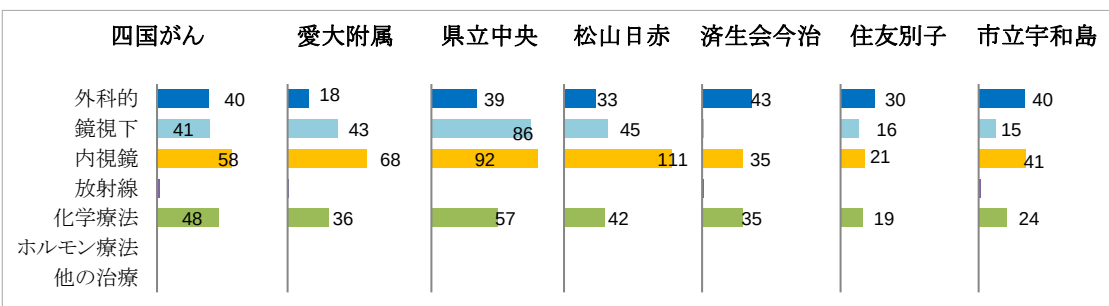
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表N-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。

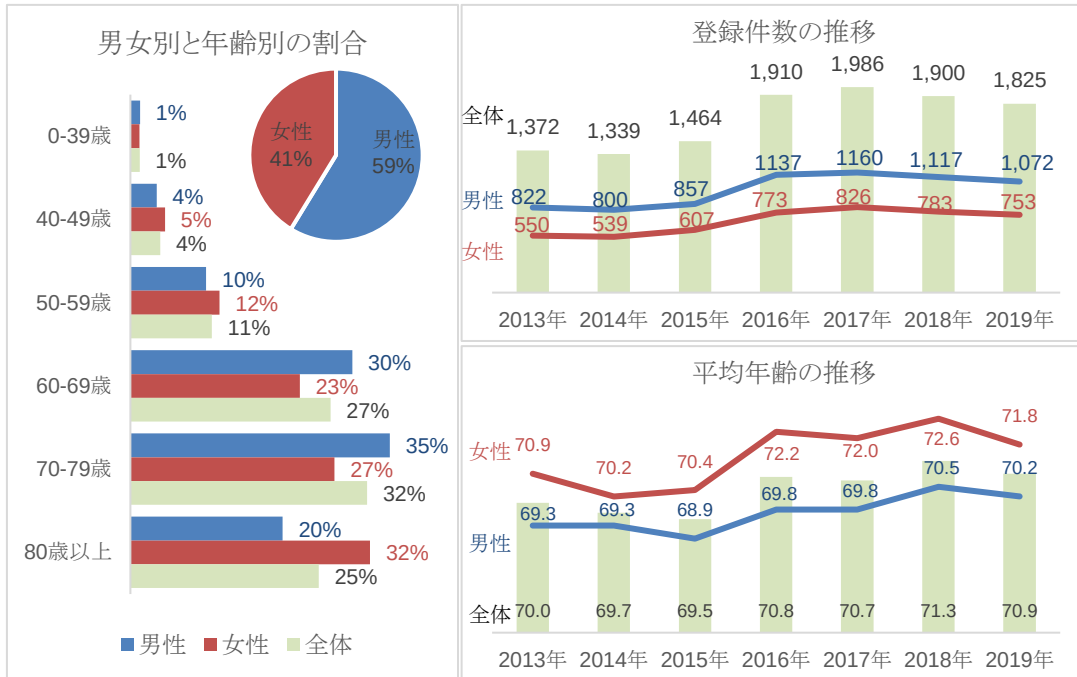


◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表N-6)

● 1 診断 ●

● 1-1 登録状況 ●

大腸がんの2019年診断症例の登録件数は1,825件で、男性が約6割、女性が約4割と男性がやや多くなっています。



◆ 1-1 資料

院内がん登録

集計対象：

▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く

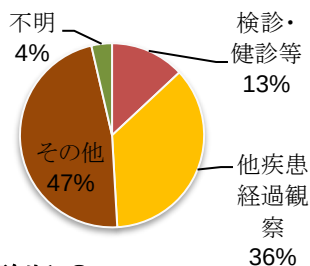
〈付録資料:表A-3〉

〈付録資料:表B-3〉

〈付録資料:表C-3〉

〈付録資料:表D-3〉

● 1-2 がんが発見される経緯 ●



大腸がんが発見される経緯で最も多いのは、自覚症状により発見される場合を含む「その他」で47%を占めています。次に多いのは、他疾患経過観察中で36%、がん検診や健康診断・人間ドックなどで発見される割合は13%です。

◆ 1-2 資料

院内がん登録

集計対象：

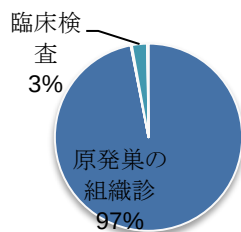
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表F-3〉

● 1-3 診断 ●



◆ 1-3 資料

院内がん登録

集計対象：

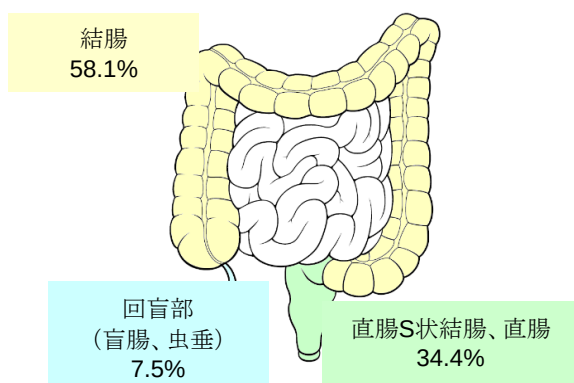
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

〈付録資料:表G-3〉

● 1-4 詳細部位 ●



局在コード	部位名	登録数
C18.0	盲腸	124
C18.1	虫垂	13
C18.2	上行結腸	255
C18.3	右結腸曲	11
C18.4	横行結腸	171
C18.5	左結腸曲	1~3
C18.6	下行結腸	101
C18.7	S状結腸	505
C18.8	境界部病巣	0
C18.9	詳細部位不明	15
C19.9	直腸S状結腸	187
C20.9	直腸	440

◆ 1-4 資料

院内がん登録

集計対象：

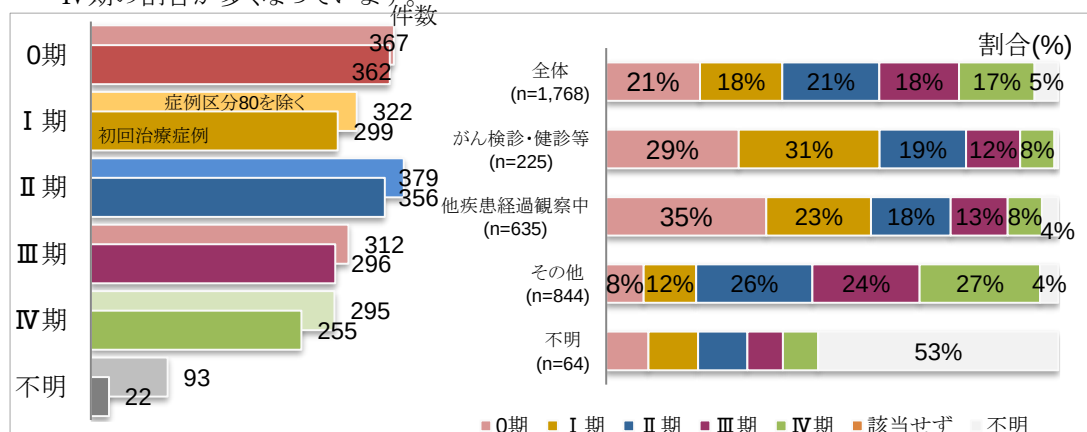
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く

● 1-5 病期(総合ステージ) ●

病期分類の対象となった1,768件のうち、0期が21%、Ⅰ期が18%、Ⅱ期が21%、Ⅲ期が18%、Ⅳ期が17%でした。発見経緯別の病期の割合は、「がん検診・健診等」・「他疾患経過観察中」では0期・Ⅰ期が半数以上を占めるのに対し、何らかの症状受診による発見を含む「その他」ではⅡ期～Ⅳ期の割合が多くなっています。



◆ 1-5 資料

院内がん登録
総合ステージ別
集計対象:

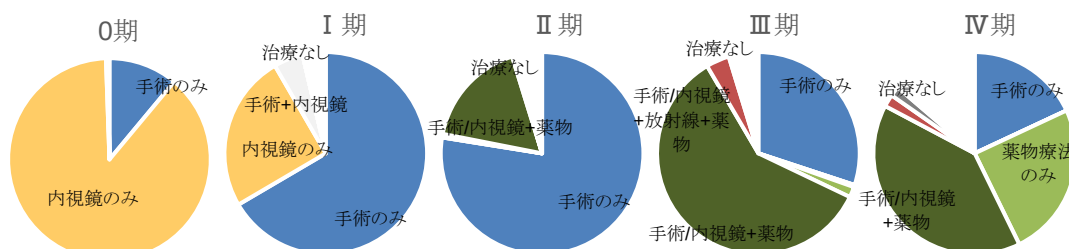
- ▶拠点・推進
- ▶2019年診断
- ▶症例区分80除く
- ▶病期集計対象のみ
(付録資料:表O-3)
(付録資料:表O-4)
(付録資料:表H-3)

● 2 治療 ●

● 2-1 大腸がんの治療 ●

ステージ別の主な治療法は、0期では内視鏡のみ(88%)、Ⅰ期とⅡ期では手術のみ(67%、78%)、Ⅲ期では切除療法+薬物(59%)、手術のみ(30%)、Ⅳ期では切除療法+薬物(40%)、手術のみ(18%)、薬物療法のみ(25%)であり、Ⅳ期では治療なしの割合が14%を占めています。

	stage0		stage I		stage II		stage III		stage IV	
()内の割合は2018年全国集計の値	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	40	11% (8%)	199	67% (56%)	276	78% (74%)	89	30% (35%)	46	18% (17%)
内視鏡のみ	320	88% (91%)	75	25% (26%)	0	0% (0%)	0	0% (0%)	0	0% (0%)
手術+内視鏡	1~3	(0%)	14	5% (11%)	1~3	(0%)	1~3	(1%)	0	0% (0%)
薬物療法のみ	0	0% (0%)	0	0% (1%)	1~3	(1%)	4~6	(2%)	63	25% (26%)
手術/内視鏡+薬物	0	0% (0%)	0	0% (1%)	61	17% (18%)	176	59% (54%)	102	40% (33%)
手術/内視鏡+放射線+薬物	0	0% (0%)	0	0% (0%)	1~3	(1%)	11	4% (3%)	4~6	(1%)
上記以外の組合せ	0	0% (0%)	0	0% (0%)	1~3	(1%)	1~3	(2%)	4~6	(2%)
治療なし	1~3	(1%)	11	4% (5%)	15	4% (4%)	13	4% (4%)	35	14% (20%)
合計	362		299		356		296		255	

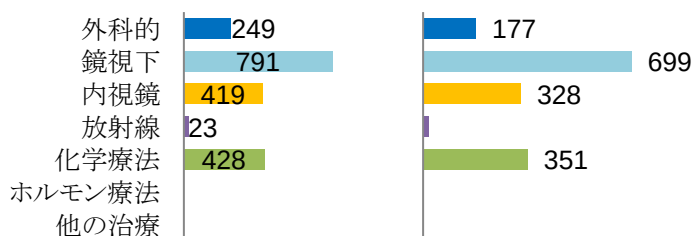


● 2-2 各治療の件数 ●

愛媛拠点・推進

拠点病院

推進病院



◆ 2-2 資料

院内がん登録
集計対象:

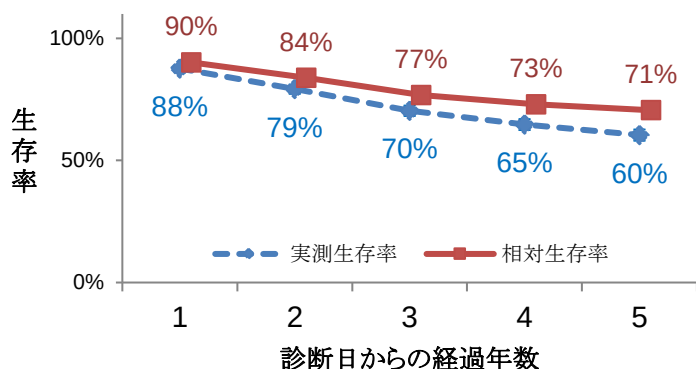
- ▶拠点・推進
- ▶2019年診断
- ▶症例区分20-31
- ▶病期集計対象のみ
(付録資料:表O-6)

● 3 予後 ●

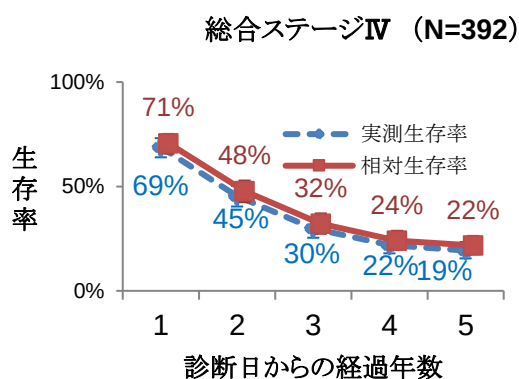
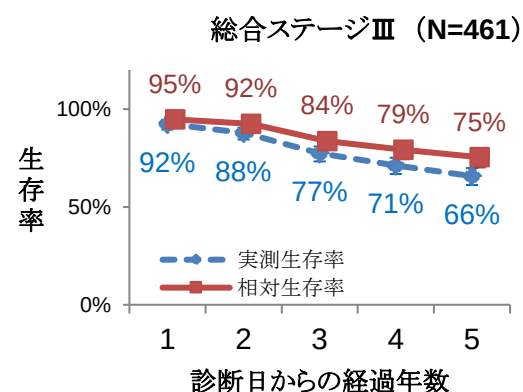
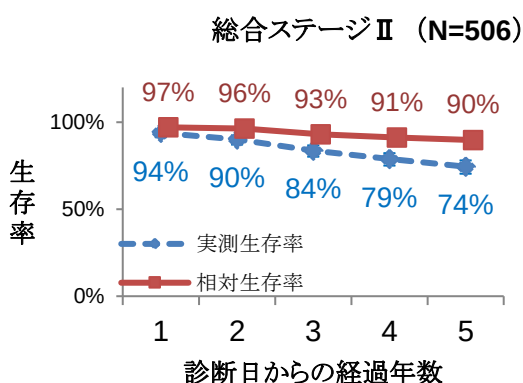
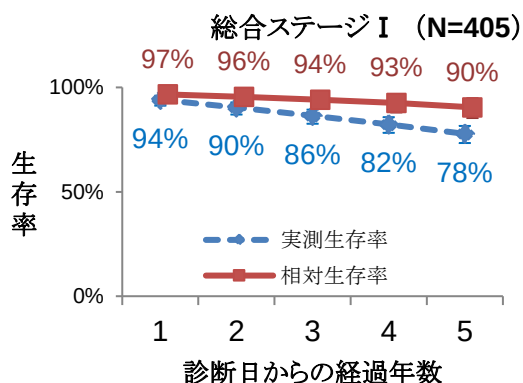
● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率60.4% (95%信頼区間 58.1 - 62.7)、相対生存率70.6% (95%信頼区間 67.9 - 73.2)でした。集計対象数は1,775、うち57%が男性、年齢別では60歳代 28%、70歳代 32%、80歳代以上 24%でした。ステージ別の内訳は0期を集計対象外としているため、I 期が23%、II 期 29%、III 期 26%、IV 期 22%でした。

	N	*予後判明率 98.0%					
		実測生存率			相対生存率		
		95%信頼区間			95%信頼区間		
	1775	1			1		
1年	1,550	0.876	0.860	0.891	0.902	0.885	0.917
2年	1,399	0.793	0.773	0.811	0.839	0.818	0.858
3年	1,236	0.704	0.682	0.725	0.768	0.745	0.791
4年	1,131	0.648	0.625	0.669	0.730	0.704	0.755
5年	1,043	0.604	0.581	0.627	0.706	0.679	0.732



● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●



◆ 3-1 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

◆ 3-2 資料

院内がん登録

集計対象:

▶ 拠点のみ

▶ 2012-2013年診断

▶ 症例区分2,3のみ

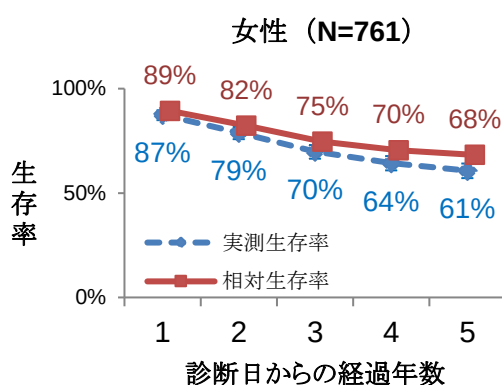
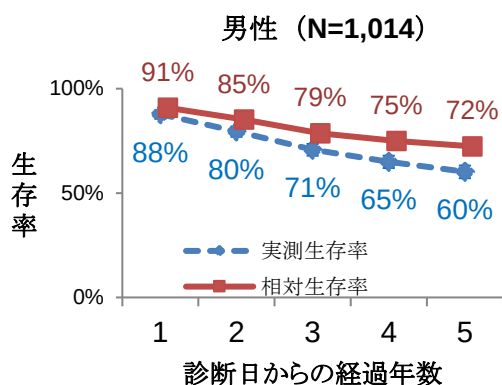
▶ 100歳未満

▶ 総合ステージ

0期除く

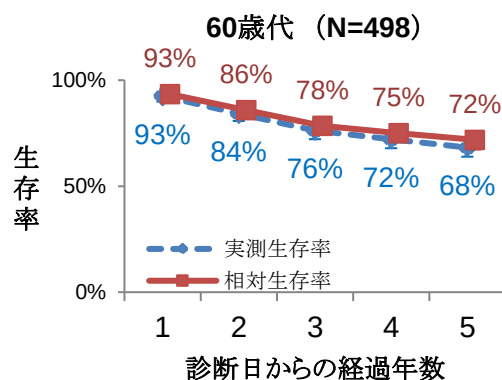
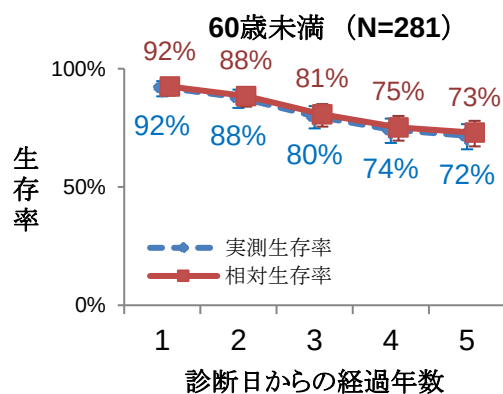
(付録資料:表c-1)

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●

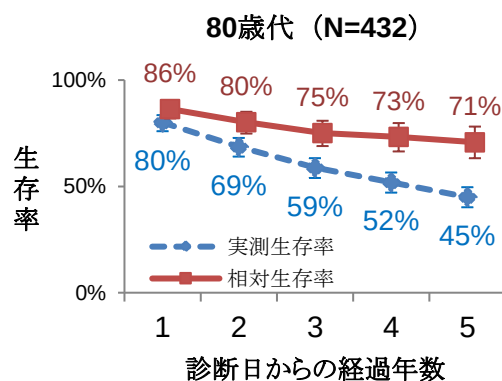
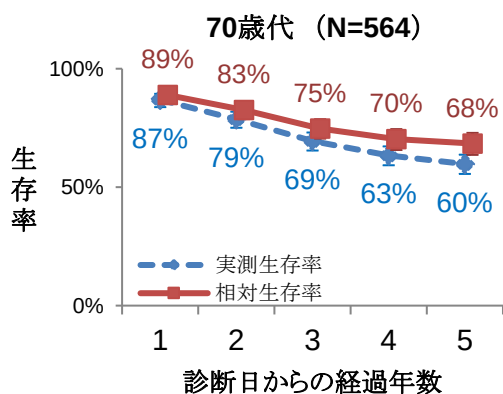


◆ 3-3 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表c-2)

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●

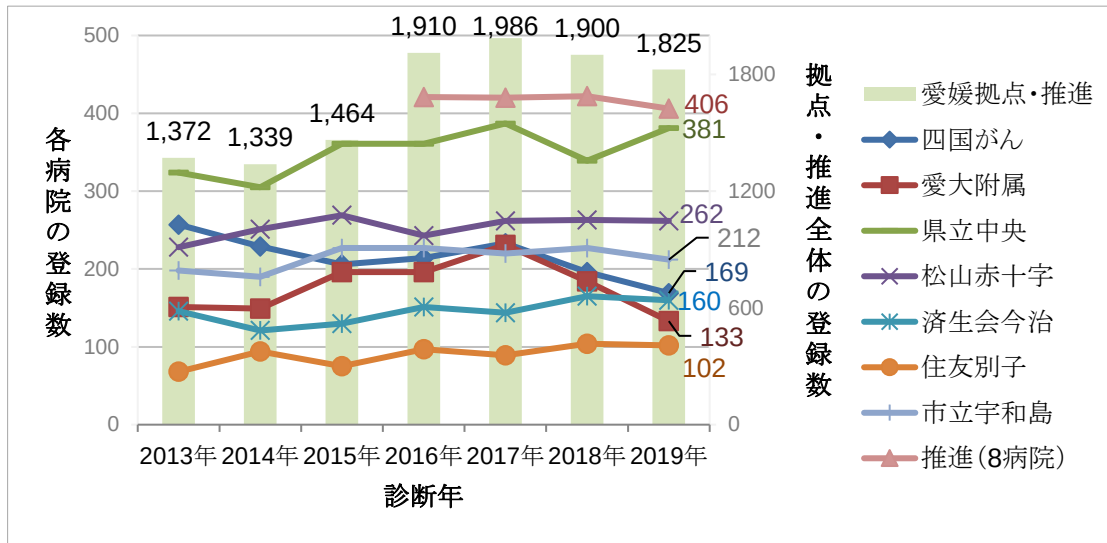


◆ 3-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表c-3)



■ 4-1 登録件数の推移 ■

大腸がんの登録件数は、2019年診断症例は県全体で1,825件です。2016年診断症例以降は推進病院の情報も加わった事で大きく増加しています。



◆ 4-1 資料

院内がん登録
集計対象：

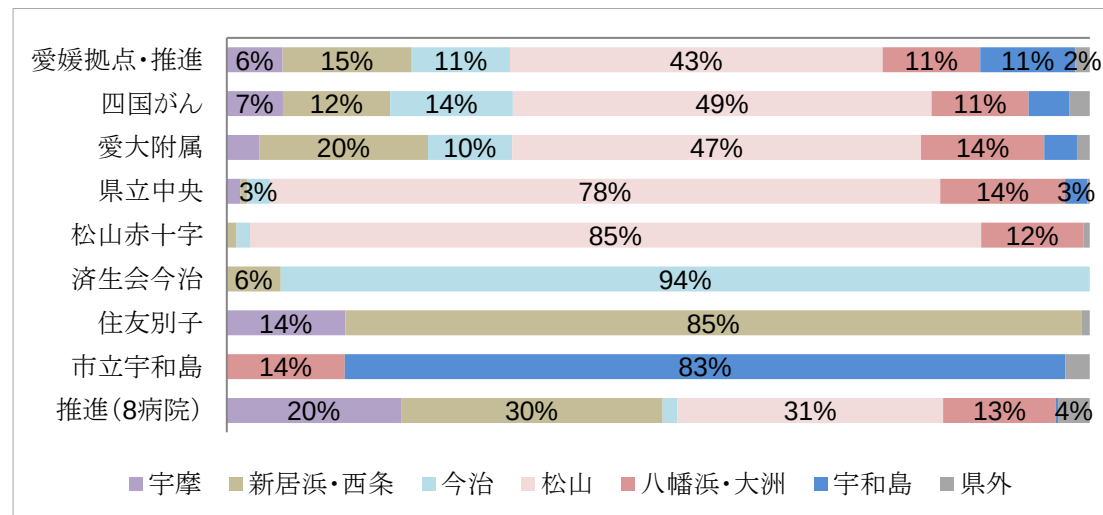
▶拠点・推進

▶2013-2019年診断

▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-3)

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では43%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいことがわかります。



◆ 4-2 資料

院内がん登録
集計対象：

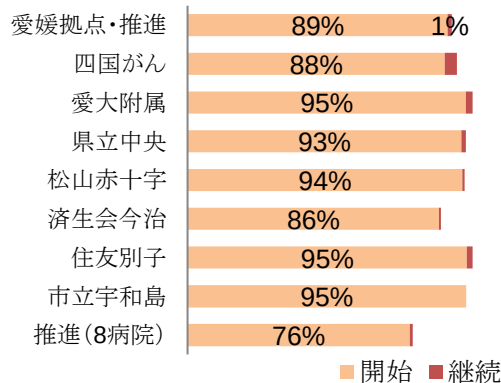
▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く
(付録資料:表I-3)

■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規大腸がん症例のうち90%がその病院で初回治療を行っています。初回治療を開始した割合は89%です。初回治療症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料

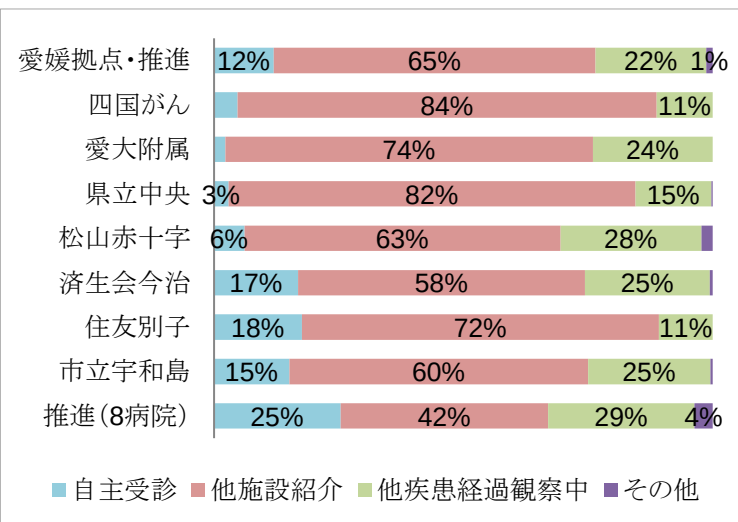
院内がん登録
集計対象：

▶拠点・推進

▶2019年診断

▶症例区分80除く
(付録資料:表K-3)

■ 4-4 来院経路 ■

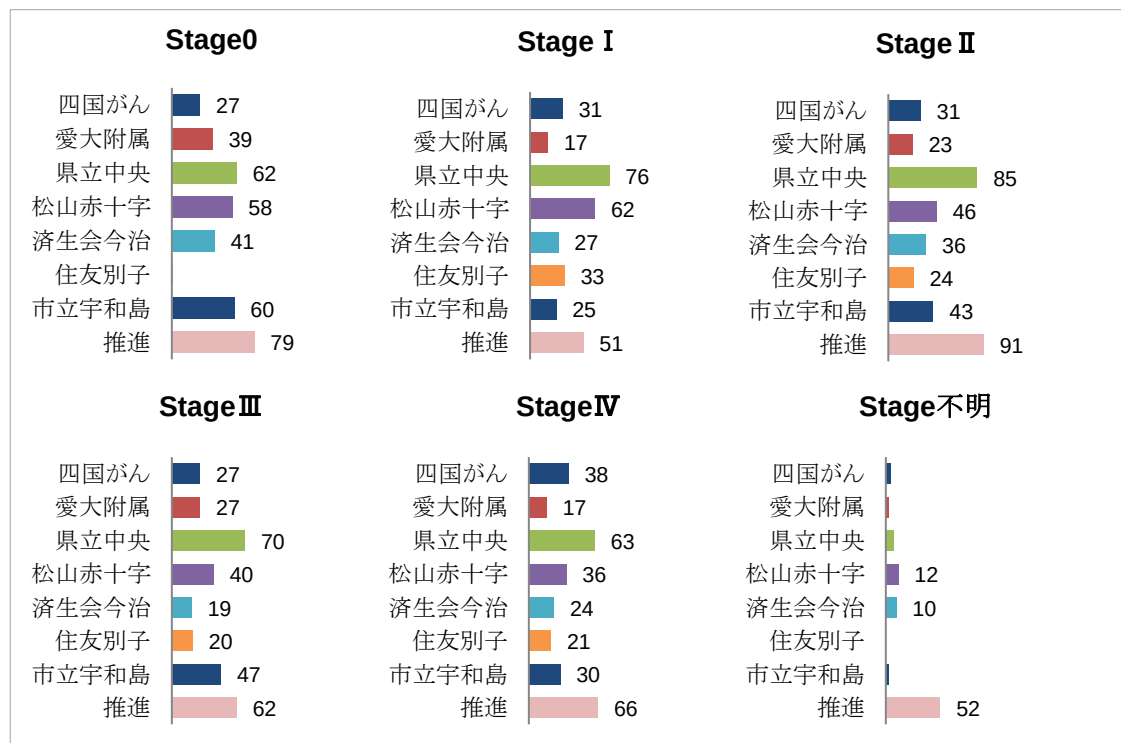


拠点・推進病院を受診した大腸がん患者の65%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-3)

■ 4-5 病期別の件数 ■

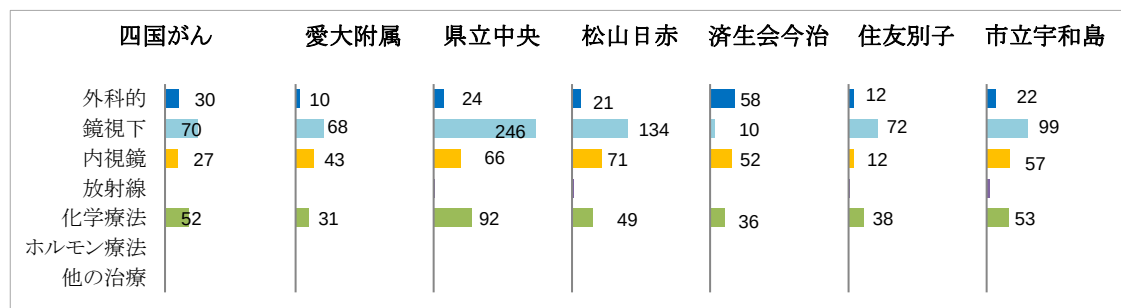
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在してます。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表O-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。



◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表O-6)